

公民学の連携よるまちづくりの実践

— 柏の葉アーバンデザインセンターから始まる新しい
まちづくり —

UDCK初代事務局総長
立命館大学客員研究員
信時 正人

UDCK

Urban Design Center Kashiwa-no-ha

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

東京大学都市工学科→三菱商事(情報産業、開発、新規事業)

→愛・地球博政府出展事業(企画・催事)
(日本館事務局長)

→東京大学大学院新領域創成科学研究科
(柏国際キャンパス担当:産学・地域連携)

→横浜市都市経営戦略室・・・戦略担当理事

→横浜市地球温暖化対策事業本部長

→横浜市環境未来都市推進担当理事

→ 同 参与
(株)エックス都市研究所 理事

(東京大学まちづくり大学院非常勤講師、横浜国立大学芸術工科大学特別講師、追手門学院大学客員教授)

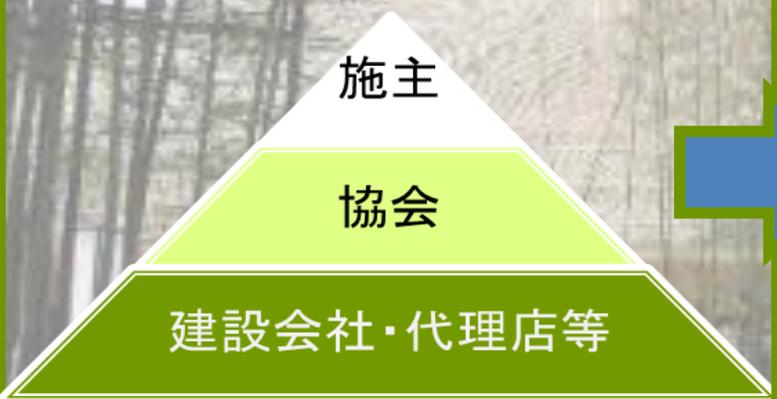


21世紀は個人のつながりの時代へ

愛・地球博での経験

日本館のプロジェクト推進体制
→個人の力の結集であった。それは

20世紀の社会的組織構造



ピラミッド型社会

21世紀の社会的組織構造



銀河系宇宙型社会

冒険的な展示...地球の部屋、群読
「一粒の種」、森の一日etc.の実現

- まちづくりは総合デザイン？！
- 人・モノ・コト・情報…
- ハードだけではなく全産業、全セクターが関わること…
- 基本的に大事なこと…

1) 己を知る、そして誇りに思う(デザインの素材)

2) 異分野・異業種の融合と協働(社会のデザイン)

3) 経営マインド (サステナブルデザイン)

地域との関わり・・・生き甲斐です

多中心型社会へ

2002年NPO横浜ラービークラブの設立。
野球ベースとしてでは神奈川県最初のNPO。これが地域の核に

少年野球の実際は・・・

子供、教育、スポーツ、地域、健康、福祉、学校、防犯、防災、親と子供、他人との関係
などを有機的に考えるための入り口

おやじたちの地域革命：社縁より**地縁をとったオヤジたち**による

地域コミュニティの再生

子供たちへの抑止力

防災への備え 等

オヤジ、地域の中核を担う

銀河系宇宙型社会の時代を、
実感しています

連携・推進機関 UDCKの3つのポイント

シンボリックでオープンな拠点施設

- ・「場」に活動・情報を集め、常にオープンに議論し、発信する。



初代UDCK(2006.11~2010.8)



二代目UDCK(2010.9~2014.3)

③ シンボリックでオープンな拠点施設



三代目UDCK(2014.4~)

初代施設の場所に建設された東京大学駅前サテライトの1階に入居

UDCKの構成団体

三井不動産
首都圏新都市鉄道

東京大学
千葉大学

柏市
柏商工会議所
田中地域ふるさと協議会

公 共 × 民 間 × 大 学

UDCのポイント

① 公・民・学 持ち寄り型の共同責任運営体制(体制)

- 課題・プロジェクトに応じて、各主体の立場を生かし、臨機応変に協力・推進体制が組める
- 活動経費確保、運営資金、マンパワー確保が柔軟
- 旧来の組織の「中心(中間)」に位置する形であることから、専任スタッフが中立的かつ独自の立場で動ける
(どこにも属していないようですべてに属しているような感覚)

② 専門家による主導(人)

- 学識がトップとなることで、公一民の関係のバランスが図られる
- 専門性を持つスタッフの立場が尊重され、コーディネーターとして機能する
- 多分野の専門性を持つスタッフの密な連携で、スピーディーに物事が動く

③ シンボリックでオープンな拠点施設(場所)

- 人が集まる、情報が集まる、活動が生まれる、それが見える(見せられる)
- UDCという得体のしれない組織が「実体」として認識される

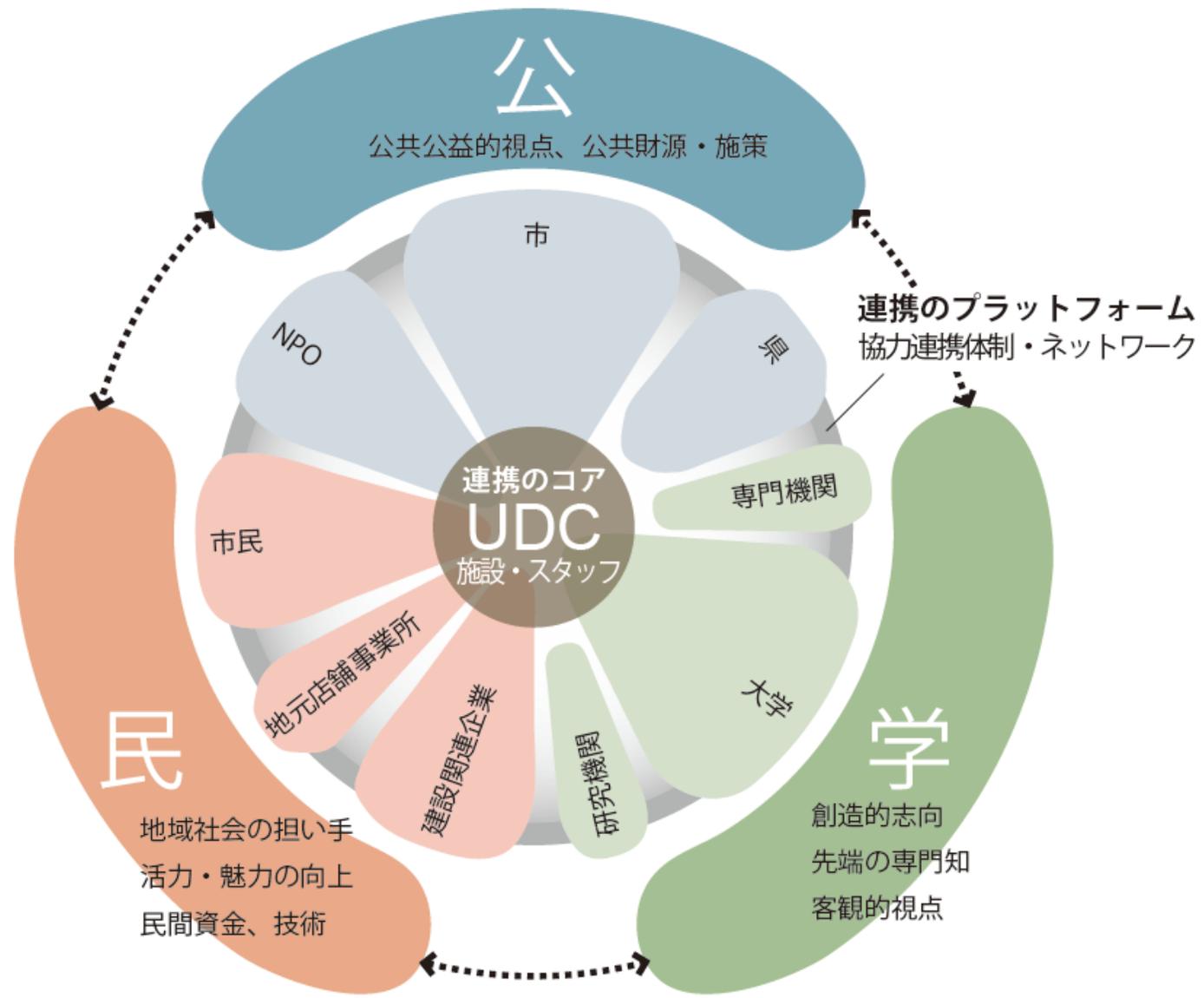
公民学連携によるまちづくりの構図

まちに係る多様な主体が共同でまちづくりを議論し実践する仕組み

【公】 = 行政(官)、非営利組織(NPO)など、地域社会に必要な公的サービスを担う

【民】 = 市民、経済活動を行う企業など、地域の活力と魅力の向上を担う

【学】 = 大学などの教育研究機関や専門家など、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う



「場」としてのアーバンデザインセンター

ギャラリー(約140㎡)

: 会議、フォーラム、スクール、WS、展示等

インフォメーション: 受付、チラシ等

オフィス

オープンデッキ



◆ 駅前一等地のオープンかつシンボリックな施設

→ 拠点(場所)の力が、多様な交流・連携を生み出す

「場」としてのアーバンデザインセンター

UDCKの利用実績

施設利用内容	2011年度の利用件数
街づくりに関する会議	420
大学の講義・演習・研究会	79
フォーラム/イベント	71
国内外からの視察	208
市民講座・ワークショップ	62
市民活動・準備・作業等	47
合計	887



- ・大学の講義、まちづくりの会議から、市民活動まで、多様な利用が一つの空間で展開
- ・年間利用回数： 約900件

(2011年度実績 予約ベース)

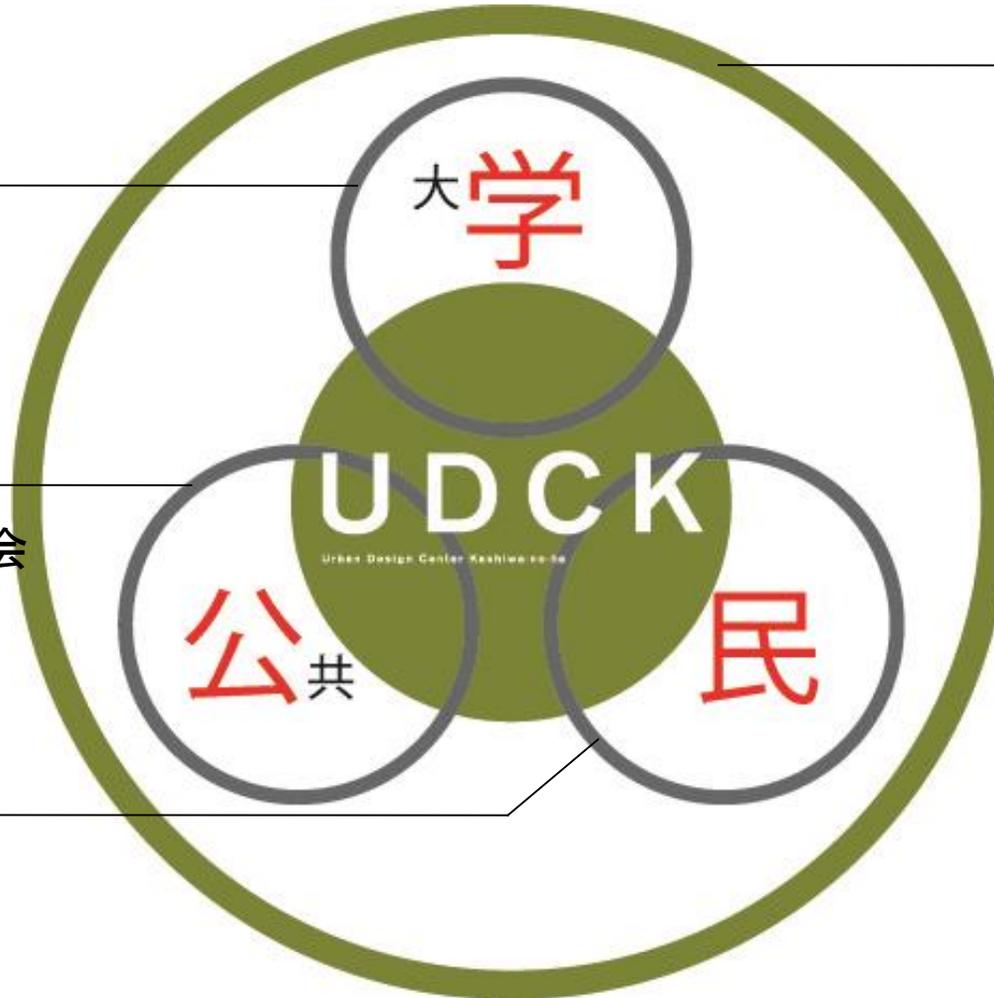
「活動組織」としてのアーバンデザインセンター

構成団体

東京大学
千葉大学

柏市
柏商工会議所
田中地域ふるさと協議会

三井不動産
首都圏新都市鉄道



協力団体

- ・柏市都市振興公社
- ・千葉県
- ・スパイラル
- ・都市環境研究所
- ・UG都市建築
- ・NPO支援センターちば
- ・ジャパンライフデザインシステムズ
- ・プラップジャパン
- ・YRPユビキタス・ネットワークング研究所
- ・藤崎事務所

◆公・民・学のフラットかつ柔軟な連携による運営

→UDCKをプラットフォームに迅速かつ多様な取り組みの実現

空間デザイン

柏の葉キャンパス駅周辺地区

アーバンデザイン委員会(デザインレビュー)

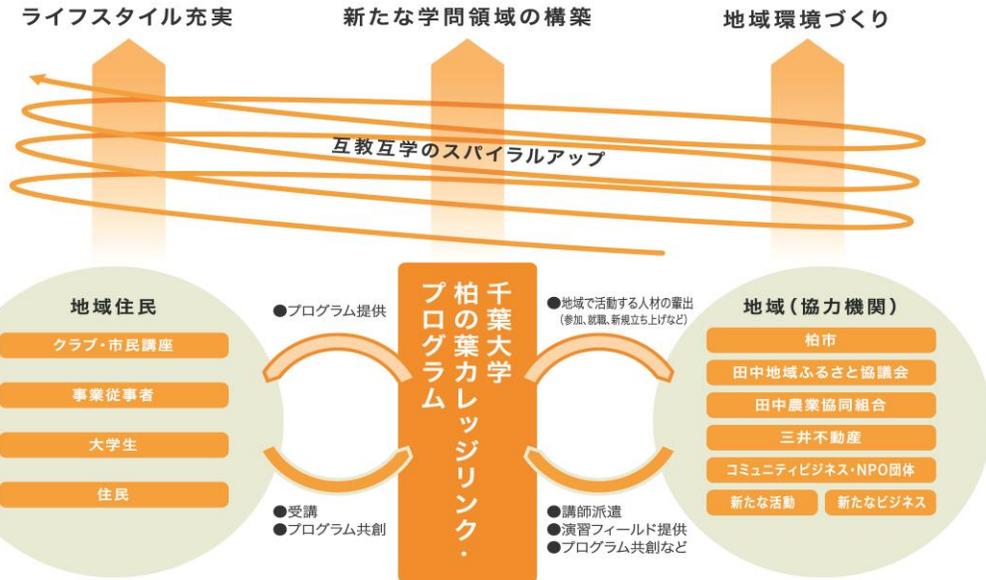
地権者・事業者・行政を集め、指導する専門家



学習・研究

カレッジリンクプログラム(千葉大学)

- ・環境、健康、食の観点から、大学の「知」を市民と共有し、まちを教材にしてフィールドワークすることで、市民のライフスタイルとコミュニティ全体の質的向上を目指す
- ・千葉大学環境健康フィールド科学センターが主催



柏の葉エリアの地域活性

まちづくりスクール(柏市都市振興公社)

- ・まちづくりを推進していく際に有効なツールとなるワークショップの進め方やアーバンデザイン、市民参加によるまちづくり等を実践的に学ぶことができる市民講座
- ・計4~6回の講座からなるプログラムで、基礎講義やワークショップが行われる
- ・柏市都市振興公社が主催





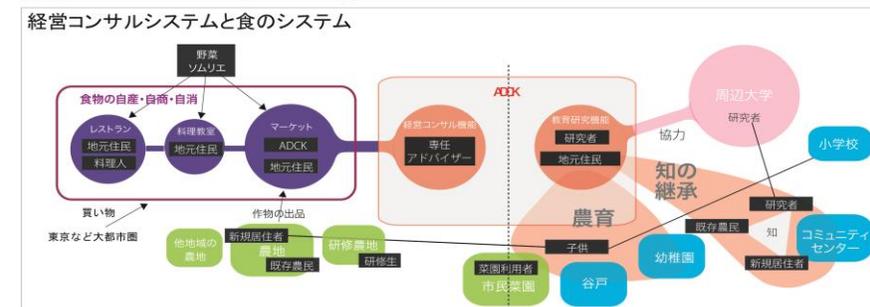
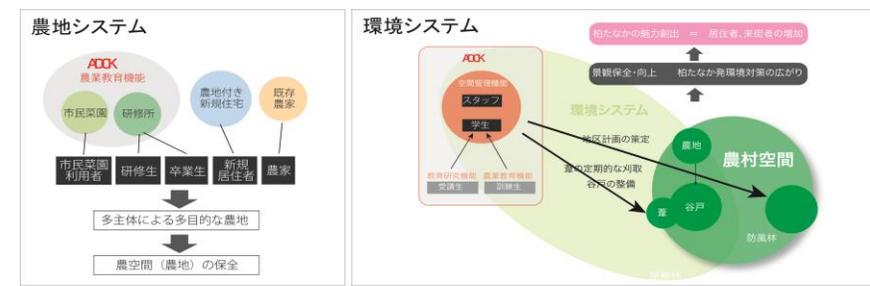
新しい公共空間の提案



2007年度の講義風景



2008年度の地元住民との意見公開の風景



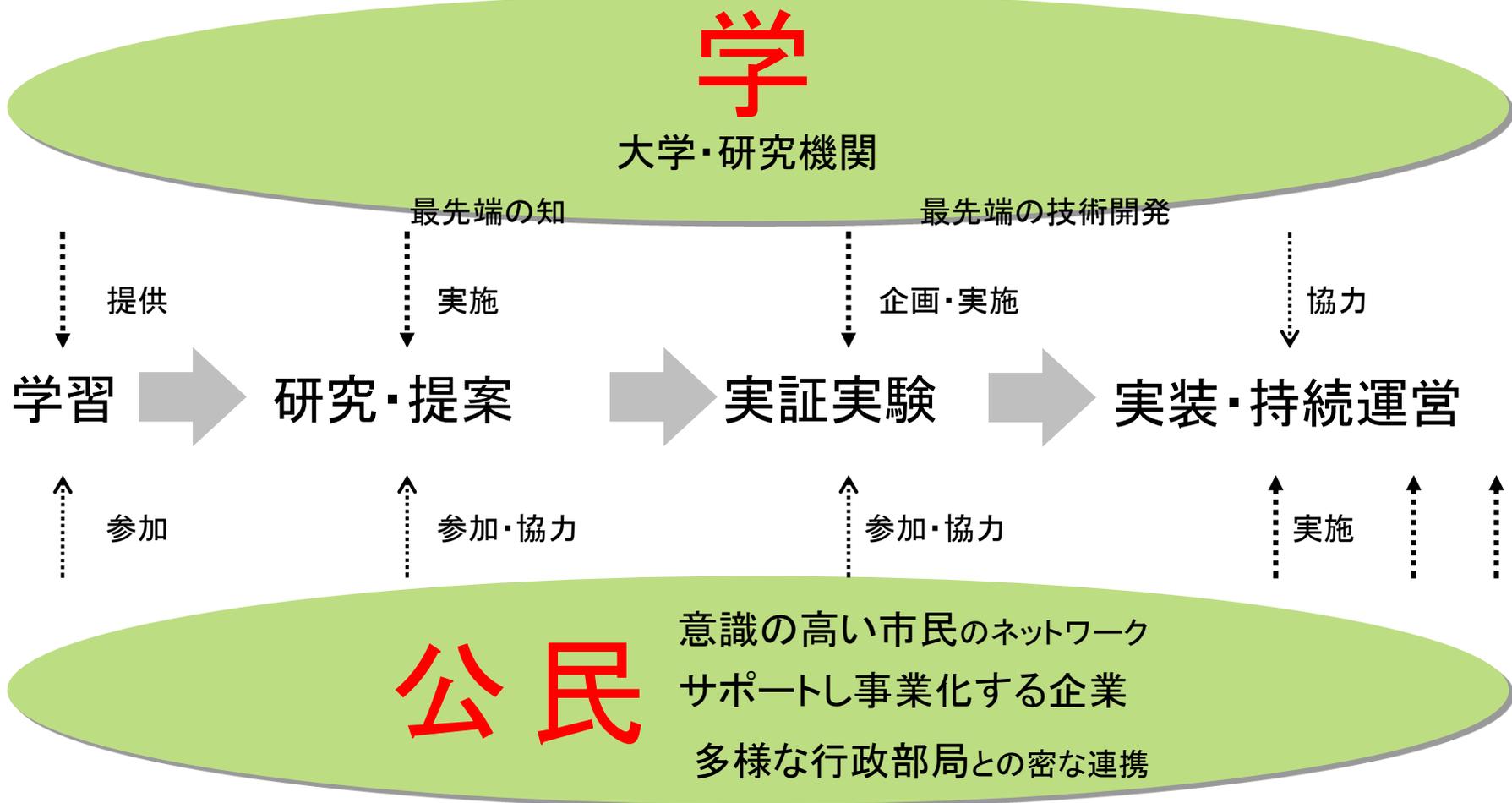
2008年度 | 農地活用のシステム提案



次世代移動交通： デマンドバス 共同自転車 セグウェイ マルチシェアリング

コミュニティ・交流





柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK

- ・連携プラットフォーム
- ・企画・コーディネート
- ・情報発信

UDCY (2008)

アーバンデザインセンター横浜 の 設立

Urban Design Center Yokohama

2008年4月に設立。

UDSY(アーバンデザインスタディーズ横浜)研究会を機に展開。

様々な機能的展開を図るため、意思決定組織(横浜アーバンデザイン研究機構)と、事務局・運営組織(アーバンデザインセンター横浜)の設置。

場所を有しない、「ネットワーク型シンクタンク」を特徴として展開している。



UDSY (2007-08)

アーバンデザインスタディ横浜

Urban Design Study Yokohama研究会

『未来社会の設計』

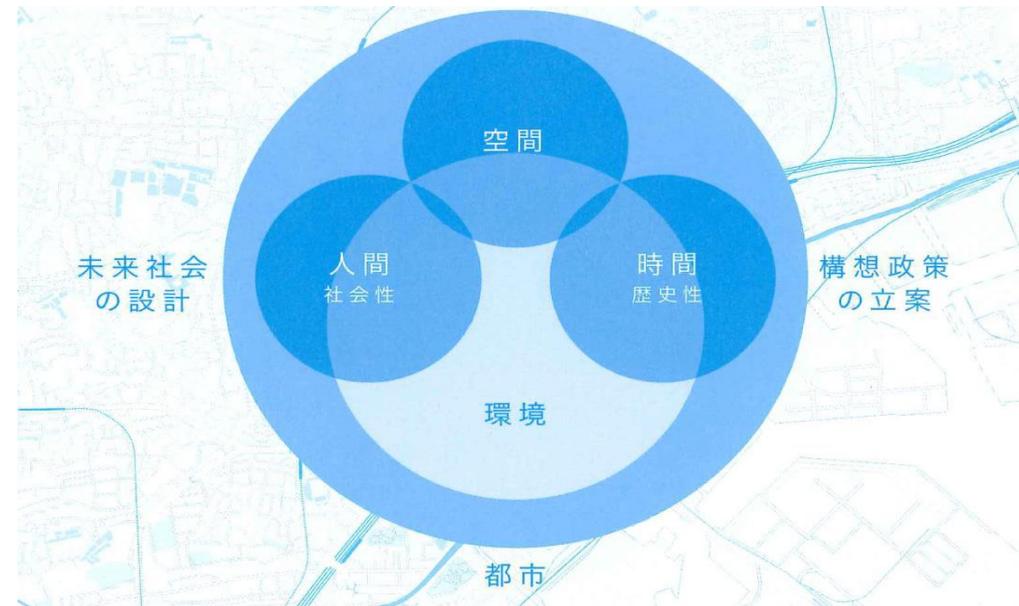


専門家・学生・企業人・公務員など、様々な分野から横浜の将来を構想すべく集まった70~100人による勉強会。5つのグループ【**都心・郊外・移動・緑地・環境**】に分かれて、週に一度夜な夜な集まり議論を重ねた。

UDCY の考え方

時間×空間×人間 により 未来社会を構想・設計する

(横浜の)都市環境に対して、
空間・時間・人間(活動)の3つの視
点から捉えなおし、
未来社会のあり方を「構想」し、設
計することを図る。



フラットな 公×民×学 の連携

公【自治体・NPOなど】／
民【企業・市民】／
学【大学・研究者・専門家】が、日
常の社会関係に縛られ過ぎずに「フ
ラット」な形で集まり、「多様な専門
性」を持ち寄って、これを発揮する。



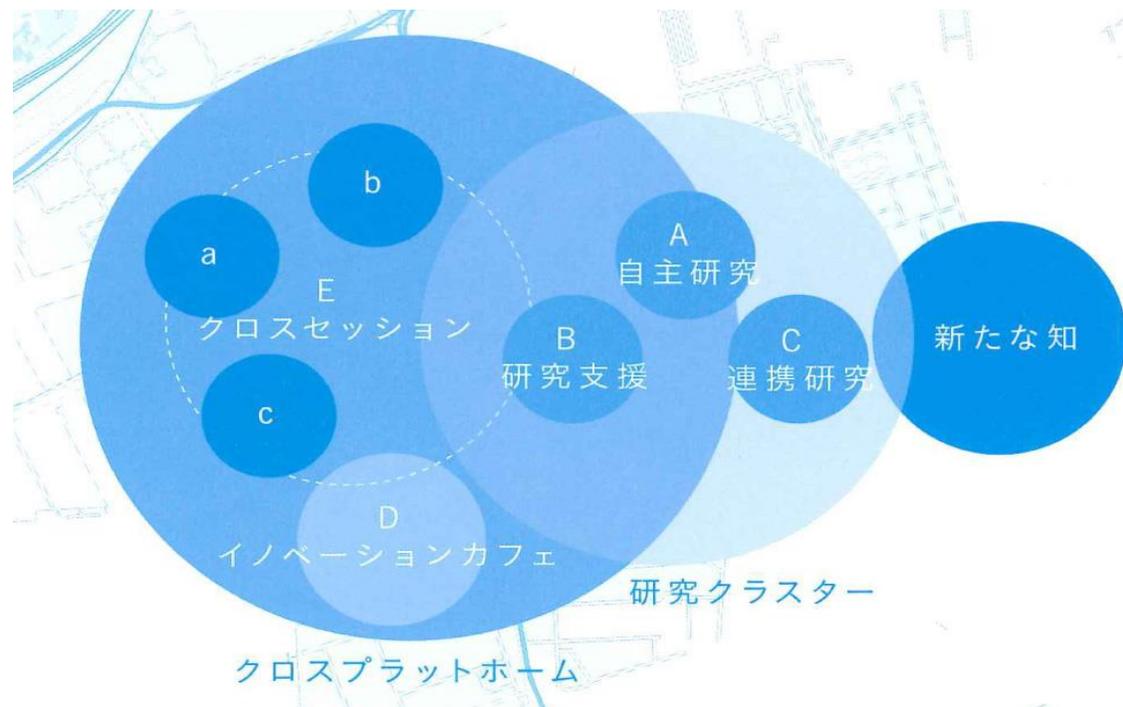
ネットワーク型 シンクタンク

- 370万市民の政令指定都市の多様性を活かしながらコーディネート
- 多様な能力・技能を持ち、組織的には絡み合う関係をネットワークとして捉えなおす
- 知を共有・蓄積して、新たな知へと導く起点(シンクタンク)に。

1. クロスプラットフォーム

多様な主体の連携により新たな改革を生み出すための異分野の情報交歓の場としての「イノベーションカフェ」

フューチャーカフェによる交流発信



2. 研究クラスター

各分野の専門家等が多様な視点で研究クラスターを立ち上げ、緩やかに連携(自主研究・研究支援・連携研究)

コアスタディーズ(分科会)活動

当初の構想

【大きなビジョン・枠組み】

開港200年に向けた都市構想の提案
イノベーションカフェの開催

【研究クラスター】

→UDSYの成果を基にクラスターを検討。

1. YES(YOKOHAMA ECO-SCHOOL)
2. 横浜電力構想
3. ソーシャルエコロジーコミュニティ(SEC)
4. 食循環による自立型社会の形成
5. 郊外研究
6. 横浜都心空間の構想計画研究
7. 都市と農山村の新しい連携の模索

01 フューチャーカフェ

future café (2009-10)

環境・交通・文化芸術・郊外
などのテーマを基にして、2009～
2010年にかけて実施

毎回、ゲストをお招きし、公開形式
で議論を行う。

講演のみならず、参加者のグルー
プトーク、交流会などを併せて市民
や参加者との情報交換も図る。



02 モビリティデザインカフェ

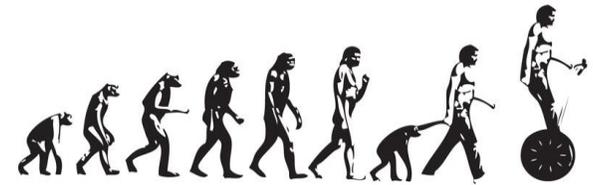
future café (2012-13)

共催: tvkテレビ神奈川・NTT東日本

市民・専門家・セミプロなどによる、
モビリティ(移動)を契機とした資源
発掘と資源ネットワークの検討
⇒商店街・水辺等の再発見
⇒セグウェイの可能性

- ①team yokohama premium
- ②DEEP吉田班
- ③市電班
- ④自転車班
- ⑤水辺班
- ⑥クリエイティブシティ班
- ⑦健康班
- ⑧セグウェイ班

モビリティデザインカフェ
「未来の横浜の移動空間を考える」
tvk+UDCY 「future café」



第1回目 10月21日(日) 第2回目 10月28日(日) 13:00~16:00

主催 テレビ神奈川、UDCY アーバンデザインセンター横浜
実施パートナー 神奈川大学、NTT 東日本・神奈川支店、Team OPEN YOKOHAMA、
YES (ヨコハマ・エコ・スクール)、横浜国立大学都市イノベーション学府・研究院
場所 NTT 東日本神奈川支店 Green Terrace (横浜市中区山下町 198 NTT 横浜ビル地下)
参加費 無料



横浜を考えることは、世界を考えること
future café~モビリティデザインカフェ 未来の横浜の移動空間を考える~

「mobility=移動」を「観光」と「日常」という2つの切り口で考えるワークショップです。
「移動」を環境や高齢化社会、健康、防災、芸術など様々なピースを組み合わせ、未来の横浜の移動空間を創造します。



「移動」を「エコ」に。
smart
move



スマスマ編集会議 (2013)

@住まい・住まい方班

様々な業界の専門家や生活者を編集員として招聘し、住まい・住まい方に関する様々な社会動向、知恵や技術、生活者の価値観等を紹介しあい、これからの住まい・住まい方の新しいアイデアやコンセプトを共に考えていく会議。

日程	曜日	回数	テーマ	ゲスト・司会	ゲスト 所属団体
2013/7/25	木	第1回	UDCY“住”の目的に触れ、参加者それぞれの思いに耳を傾ける		
2013/8/8	木	第2回	これからの住まい(住まい方)を考える、人口減少・高齢化	林千賀	横浜市
2013/8/29	木	第3回	これからの住まい(住まい方)を考える、地域コミュニティとライフスタイル変化	秋元 康幸	横浜市
2013/9/12	木	第4回	これからの住まい(住まい方)を考える、子育て支援、教育、医療、福祉、介護	北原まどか	森ノオト
2013/9/26	木	第5回	これからの住まい(住まい方)を考える、 防災	刑部真弘	東京海洋大学
2013/10/10	木	第6回	UDCYスマスマ編集会議_積水ハウス「観環居」	穂本 敬子	積水ハウス株式会社
2013/11/13	水	第7回	これからの住まい(住まい方)を考える、都市インフラ・スマートさ、エコ、モビリティ	押野直美	日産自動車株式会社
2013/11/27	水	第8回	UDCYスマスマ編集会議「災害と住宅」	大木聖子	慶応義塾大学環境情報学部准教授
2014/3/6	木	第9回	UDCYスマスマ編集会議～超高齢社会とお金の関係～:	山本貴啓氏	スルガ銀行平塚支店支店長

スマートな住まい・住まい方カフェ

(2014)

スマートな住まい・住まい方の実践者の拡大に向けた取り組み

～エコでスマートな住まいを住まい方から考えるワークショップ～

- ・環境問題や、人口減少・高齢化などの様々な社会的課題に対応し、**住まいや住まい方も変えていく必要**
- ・今ある資源を大切に使い、古い建物も**リノベーション**して使い続ける、その中でも**環境にやさしい住まい方**を目指す、その上で**横浜での生活を楽しめることが大切**
- ・リノベーションをキーワードに、エコでスマートな、**横浜らしいライフスタイル**を考える
- ・議論した内容は「スタイルブック」としてとりまとめ、横浜から発信

[主催] 株式会社テレビ神奈川 [共催] 横浜市 **[協力] UCDY**

	テーマ	ゲストスピーカー
第1回	スマートな住まい・住まい方って何？	内山 博文 氏 株式会社リビタ
第2回	ローカルファースト！	吉澤 卓 氏 株式会社ステップ・チェンジ
第3回	セカンドライフ！	馬場 未織 氏 ライター 酒井 洋輔 氏 「住まいの松栄」松栄建設株式会社
第4回	サードプレイス！	兎洞 武揚 氏 博報堂ブランドデザイン
第5回	ヨコハマに住まうことを考える！	—

- UDCKから始まって全国に広がりを見せてきた...
- UDCY、UDCT、UDCKo、
- UDCM、UDCIC、UDCQ、
- UDCMi
- UDCN、UDC2、UDCSEA、
- UDCC、
- UDCBK、
- UDCTak,,,そして
- ・・・・UDCイニシアティブ設立に向けて



海と共に暮らす、ひとつ先のみらいへ

日本は海に抱かれた国です。東日本大震災では大津波が押し寄せ、環境汚染・資源の減少など様々な問題がある一方、近年、海の果たす役割として、食料や資源、エネルギーの確保などが見直されつつあります。そんななかで、横浜は開港以来、港を中心に発展してきた歴史を持ち、海洋に関連する大学・企業・研究所が多く立地しています。

至近では「インナーハーバー構想」は東日本大震災前に検討が行われ、都市計画に関する政策提言として一定の評価を得ました。横浜都心臨海部を中心に、目指すべき21世紀の国際海洋環境都市としてのありようを考察し、新たな政策提言を行っていきます。

市民参加型プラットフォーム

分科会1

きれいな海、豊かな海、海を楽しもう

分科会2

海洋環境みらい都市のまちづくり

分科会3

海のエネルギーとまちづくり

マリーナ ベイ サンズ
(シンガポール)



[http://www.marinabaysands.com/
environmental-sustainability.html](http://www.marinabaysands.com/environmental-sustainability.html)



ご清聴ありがとうございました

